



訪問ガイド 2026

ブロワ王城

ブロワ・から 16€

<https://chateaublois.visit-tickets.com/ja/>・優先入場チケット & 料金

歴史 & エクスペリエンス

起源 & 歴史

石に刻まれたフランス史

GOOGLE **4.5** ★★★★★ 22 932 レビュー

TIQETS **4.6** ★★★★★ 741 レビュー

ブロワ王城は、フランスの歴史を象徴する生きた博物館です。その起源は9世紀まで遡り、ノルマン人の襲撃から守るための砦として築かれました。10世紀にはティボー・レ・トリシュールによって「グロース・トゥール」（フォア塔）が建設され、封建時代の厳格な雰囲気を今に伝えています。この巨塔は、後に華やかなルネサンス建築と対照的な姿で、城の最も古い記憶を守っています。

中世から近世への転換期、オルレアン公ルイ（後のルイ12世）が城を改造し、ゴシック様式の装飾と初期ルネサンスの要素を融合させました。ルイ12世棟は、火ばち型の窓枠と精巧な彫刻で知られ、王室の権威と芸術への情熱を示しています。ここでは、シャルル・ドルレアン（ラファエル）の詩歌コンクールや、ジャンヌ・ダルクによる祝福が行われ、文学と信仰の中心地となりました。

しかし、城の真の輝きはフランソワ1世の下で開花しました。フランソワ1世階段は、中央に光を取り込む二重螺旋構造という革新的なデザインで、当時の建築技術の頂点を極めています。ナッツ材とオーク材の複雑な彫刻は、イタリアからの影響を受けつつも独自のフランス的エレガンスを体現しており、ルネサンス期の美意識を凝縮した傑作です。

19世紀にはフェリックス・デュバンによる修復が行われ、失われた彩色装飾が蘇りました。ヴィオレ＝ル＝デュクの影響を受けた彼の工作は、歴史的正確性と芸術的創造性を兼ね備え、現在の王立居室の鮮やかな色彩を生み出しました。これにより、城は単なる遺跡ではなく、過去の栄光を再現した舞台として再生されました。

体験

城門を通り抜けると、まず迎えるのは時間の重層感です。石畳の広場から内部へ足を踏み入れると、冷たい空気が肌を撫で、遠い時代の足音が聞こえてくるようです。中世棟の厚い壁と狭い廊下は圧迫感を伴いますが、それは防衛の意志を感じさせる重要な体験です。暗闇の中から突然現れる光は、礼拝堂や寝室の神秘的な雰囲気を強調し、訪れる者の心を静めます。

そして、フランソワ1世階段へと進むと、世界が一変します。天井から降り注ぐ自然光が、螺旋状に巻き上がる階段の曲線を際立たせ、金色の輝きを放ちます。ここでは重力が無効化されたかのような軽快さがあり、ルネサンスの躍動感が空間全体を満たしています。テラスからはロワール川の流れとブロワの街並みが一望でき、過去と現在が交差する瞬間を確かに感じ取ることができます。



訪問の準備

実用的な情報

住所

中心部・地下鉄: 利用不可（ブロワには地下鉄がありません）。SNCF駅からは徒歩でアクセスしやすく（15分）、市内の駐車場からも便利です。

営業時間

季節や学校休暇によって変動します。特に冬季は開館日が減る可能性があるため、訪問前に公式サイトでご確認ください。

料金

年齢に応じて子供無料（バリエーションをご確認ください）。大人料金は16€から。オーディオガイドは追加料金（+3€）です。

所要時間

オーディオガイド付きで城を完全に観光するには1〜1.5時間を見込んでください。同じ建物内にある美術博物館も含める場合は、合計約2.5時間かかります。

写真撮影

フラッシュや三脚なしでの個人使用目的の写真撮影は許可されています。フランソワ1世階段は特にフォトジェニックですが、鮮明な写真を撮るためには早めに来て混雑を避けることをお勧めします。

対象者

家族向けオーディオガイドコースのおかげですべての層に適しています。歴史や建築愛好家、そしてルネサンス調のロマンチックな雰囲気を探しているカップルに最適です。

アクセス方法

アクセス & 交通手段



地下鉄

: 城 — 1 min à pied

駅 (7 min)・ブロワ＝ル・ブレイ空港 (40 min)



バス

: 城（ブロワ） — 1 min à pied

駅 (9 min)・ブロワ＝ル・ブレイ空港 (64 min)



車

駅 (4 min)・ブロワ＝ル・ブレイ空港 (50 min)



自転車

駅 (3 min)・ブロワ＝ル・ブレイ空港 (67 min)

LOCALISATION

Où se trouve ブロワ王城？



📍 6 Place du Château — 41000 ブロワ

🌐 47°35.124' N, 1°19.835' E



組織

建築様式別に見る構成

中世棟（地下～1階）

フォア塔を含む最も古い部分です。巨大な円筒形の構造と厚い壁が印象的で、封建時代の軍事拠点としての役割を理解できます。エタツの間では、13世紀の大広間のスケールを感じ取れます。床面の不均一さや歴史的な段差は、当時の生活環境をリアルに伝えます。

ルイ12世棟（1階～2階）

ゴシック様式と初期ルネサンスの融合が見られるエリアです。王妃館やチャペルが含まれており、ペンデュール部屋の伝説もここで語られます。装飾的な窓枠と精巧な彫刻が特徴で、王室の日常生活の痕跡が残されています。オーディオガイドの説明を聞きながら、建築の変化を追うのが楽しいです。

フランソワ1世棟（1階～テラス）

城のハイライトである階段を中心に、ルネサンス期の華麗な部屋々が広がります。ナッツ材の彫刻や彩色装飾が施された居室は、フェリックス・デュバンの修復により本来の輝きを取り戻しています。テラスからはロワール川とブロワ市へのパノラマが広がり、写真撮影の絶好スポットです。

アクセシビリティ

 車椅子アクセス

歴史的階段によりアクセスが部分的に制限されています。難聴者向けに磁気ループシステムをご用意しています。

 ファミリー向け

子供にも歴史を楽しんでもらえるよう、オーディオガイドにはインタラクティブなファミリーコースをご用意しています。

 オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語, イタリア語, ドイツ語



必見スポット

選 択

絶対に外せない名場面

01

中央ホール

フランソワ1世階段

世界で唯一の二重螺旋階段であり、16世紀の建築革新の象徴です。中央のオープンページから光が差し込み、ナッツ材とオーク材の複雑な彫刻を際立たせます。互いに交わずに移動できる設計は、当時の技術力を示しています。

💡 朝の自然光が最も美しく、混雑を避けて早めに来ることをお勧めします。

02

中世棟

フォア塔

10世紀に建てられた最古の遺構で、封建時代の起源を理解するのに不可欠です。巨大な円筒形の構造は、隣接するエレガントなルネサンス風ファサードと強く対照的です。訪問者は少ないものの、その存在感は圧倒的です。

💡 滑りにくい靴底を用意し、安全に移動しましょう。

03

王妃館

ペンデュール部屋

カトリーヌ・デ・メディシスの霊に憑かれているという超自然的な伝説を持つ部屋です。現在時計がないにもかかわらず、振り子が揺れる鈍い音を聞く人がいると言われています。静寂の中で規則正しく響く音は、王族の部屋見学に魅力的な次元を加えます。

💡 地元の人々はこの部屋を特に恐れています。

04

礼拝堂

ジャンヌ・ダルク祝福の場所

1429年、ジャンヌ・ダルクがオルレアン包囲戦を解く前に祝福を受けた歴史的な瞬間の舞台です。シャルトル司教レジノーによる祝福は、フランス解放のための彼女の使命の始まりをマークしました。この出来事は城の礼拝堂で行われました。

💡 彼女の勇気ある決断がこの場所で形作られました。

05

中世棟

ヴァランティン・ヴィスコンティの銘

夫ルイ・ド・オルレアンが暗殺された後、「何ものも私にはなく」と刻まれた痛切な銘です。この言葉は、未亡人の公爵夫人の深い悲しみを物語っています。彼女は1408年に逝去するまでここに滞在しました。

💡 悲劇的なモットーは、彼女の孤独な日々を反映しています。

06

フェリックス・デュバン 王立居室

フェリックス・デュバンの修復装飾

19世紀に王族の部屋を修復した鮮やかな彩色装飾です。彼の仕事はヴィオレル＝デュクと同時代の流れにあり、失われた美を蘇らせました。これらの装飾は、ルネサンス期の雰囲気を現代に伝える重要な役割を果たしています。

💡 彼の眼差しは、過去の栄光を正確に再現しました。

07

中世棟

シャルル・ドルレアンの詩歌コンクール会場

1458年に開催された主要な文化イベントの舞台です。フランソワ・ヴィヨンが『矛盾のパラード』で名を残しました。このコンクールは、城を権威ある文学創作の場へと変えました。詩人たちの競争は、当時の知的活気を示しています。

💡 ヴィヨンの作品は今も語り継がれています。

08

屋上テラス

テラスからのロワール川眺望

城のテラスからの不朽のパノラマです。ロワール川とブロワ市への眺望は、理想的なフレームを提供します。背景に望まないシルエットが入らないように、閑散時を狙って写真を撮りましょう。夕暮れ時の光は特に美しいです。

💡 カメラを持って行くのを忘れないでください。

アドバイス

完璧な訪問のためのヒント

TIMING

開門時に到着し、フランソワ1世階段の混雑を避けましょう。朝の自然光が彫刻の詳細を引き立てます。

BILLET

オンラインで予約し、チケット窓口の行列を回避してください。事前購入は入場を保証し、貴重な時間を節約します。

PARCOURS

中世棟から始めて、徐々にルネサンス棟へ進むと、建築の進化を順を追って理解できます。

PHOTO

テラスでの写真は、閑散時を狙ってください。フラッシュなしでの個人使用目的の写真撮影は許可されています。

PAUSE

城内にはレストランがないため、市内のレストランまたはピクニックを持参してください。

ENFANTS

ファミリーコースを利用し、インタラクティブな質問を通じて子供たちに歴史を楽しませましょう。

AUDIOGUIDE

オーディオガイドは必須です。中世棟とルネサンス棟の違いを理解し、40の興味ポイントをステップバイステップで案内します。

CONFORT

多くの階段と不均一な床面があるため、滑りにくい靴底の快適な靴を履きましょう。



よくある質問

よくある質問

ブロワ王立城の入場料はいくらですか？

大人料金は16€から始まります。この価格で城の歴史的な翼に入ることができます。より充実した経験のために、一人あたり+3€の追加料金で利用可能なオーディオガイドの追加を強くお勧めします。

事前に予約する必要があるのでしょうか？

はい、繁忙期（7月～8月）および週末にはオンライン予約が強く推奨されます。これにより、チケット窓口での待ち行列を回避できます。休暇外の平日は窓口での購入も可能ですが、保証は低くなります、特にロワール川近くでは。

割引料金がありますか？

18～25歳の若者、グループ、多人数家族には優待料金が適用されます。同伴する子供は年齢に応じて無料の場合が多いです。購入前に公式サイトで具体的な条件をご確認ください。

チケットはキャンセルできますか？

キャンセル条件は購入したチケットの種類によって異なります。オンラインで購入したチケットの多くは、訪問日の24時間前まで柔軟な変更が可能です。正確な期限については、注文時の免責事項をお読みください。

城の見学に推奨される所要時間はどのくらいですか？

オーディオガイド付きの標準的な城の見学には1時間から1時間30分を計画してください。同じ敷地内にある美術博物館も探索したい場合は、コレクションやフェリックス・デュバンの作品などを見逃さず楽しむために、半日丸々確保することをお勧めします。

ご存知ですか？

エピソード & トリビア

世界唯一の二重螺旋

フランソワ1世階段は、中央にオープンなケージを持つ二重螺旋構造です。この16世紀の技術的快挙により、訪問者は互いに交わずに移動することができました。当時としては大胆な建築革新でした。

ジャンヌ・ダルクの祝福

1429年、ジャンヌ・ダルクはここで祝福を受けました。オルレアン包囲戦を解く前の重要な出来事であり、フランス解放のための彼女の使命の始まりをマークしました。

悲劇的なモットー

ヴァランティン・ヴィスコンティは、「何ものも私にはなく」と刻みしました。夫の暗殺後の深い悲しみを物語っており、彼女が1408年に逝去するまでここに滞在しました。

19世紀の修復

フェリックス・デュバンは、王族の部屋を修復しました。彼の作品はヴィオレ＝ル＝デュクと同時代のものであり、鮮やかな色合いを蘇らせたのです。

博物館周辺

城の見学後は、同じ敷地内にあるボワ美術館で文化的な余韻を楽しみましょう。地域および国の作品を通じて、歴史的見学を完璧に補完できます。食事には、城広場の近くにあるレストラン グラン・ヴェヌールがおすすめです。典型的なロワール渓谷の料理を提供し、王立居室の見学後の昼食に最適です。さらに、サン＝ルイ大聖堂の鐘楼からは、城とは異なる角度からの素晴らしい眺望が得られます。植物園での散策も、疲れた足を休めるのに良いでしょう。



ブロワ王城を訪れることは、単なる観光ではありません。それはフランスの魂に触れる旅です。各時代の特徴が共存するこの空間では、歴史が抽象的な概念ではなく、触れられる実在となります。最後の出口を出たとき、あなたはただの訪問者ではなく、何百年もの物語の一部となったことを実感することでしょう。